

カトリック入門講座 (1回)

入門講座を始めるにあたって：

父なる神の私たちへの願い、思い ⇒ いのちを生きる ヨハネ福音書 10：10

「わたしが来たのは、羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである。」

いのちを大切にする神：

創世記1：1～3 「初めに、神は天と地を創造された。地は混沌であって、闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いていた。神は言われた。「光あれ。」こうして、光があった。

創世記1：26～28 神は言われた。「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう。」・・・神はご自分にかたどって人を創造された。男と女に創造された。神は彼らを祝福して言われた。「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。」

1：31～2：4a 神はお造りになったすべてのものをご覧になった。見よ、それは極めて良かった。・・・第六の日である。天地万物は完成された。第七の日に、神はご自分の仕事を完成され、第七の日に、神はご自分の仕事を離れ、安息なされた。・・・第七の日を神は祝福し、聖別された。これが天地創造の由来である。

創世記2：4b～ 主なる神が地と天を造られた時、地上にはまだ野の木も、野の草も生えていなかった。

2：7～8 主なる神は、土（アダマ）の塵で人（アダム）を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。主なる神は、東の方のエデンに園を設け、自ら形づくった人をそこに置かれた。

参考書： 来住英俊師著 気合の入ったキリスト教入門 I 「根本問題をつかめ！」
Ⅲ講 「天地の創造」 Ⅳ講 「人間の創造」 Ⅴ講 「人間の目的」など参照

ミサと共に (1章)

はじめに：「ミサ」は4～6世紀ごろから「感謝の祭儀」全体を表す言葉として使用された。聖書には、「主の晩餐」（マタイによる福音書 26章、マルコによる福音書 14章、ルカによる福音書 22章、1コリントの信徒への手紙 11：23～25 参照）あるいは、「パンを裂く」（使徒言行録 2：42, 46 参照 =最初の信者の生活がわかる）

ミサは食事を表し、共同体の食事の場で行われた。ミサは司祭が一人で捧げるものでなく、共同体が捧げるものです。主の日（=日曜日）に集まって食事を一緒にして、そこでイエスの思い出を語り継ぎ、イエスの愛といのちを共同体の中で新たにしていきました。聖書は、復活されたイエスが食事の席にたびたびお現れになったことを告げている。（マルコ 16：14、ルカ 24：30、）

食事から離れ、「パン」と「ぶどう酒」が象徴的な食べ物、飲み物として晩餐をあらわす。

2世紀のローマのミサー ローマで殉教した聖ユスチノ（150年頃）の手紙が残っている

日曜日に、一つに集まって① 旧約聖書と新約聖書の朗読 ② 説教（勧めと励まし）

③ 共同祈願 ④ 供え物の準備（パン・ぶどう酒・水・・・奉納）

⑤ 感謝の祈り（エウカリスチア——ギリシャ語）奉献文 ⑥ 拝領 他

迫害のさなかにあるローマの教会で、このように主日のミサの基本的な形ができ、「現在のミサの式次第の土台」となった。つまり、イエスの記憶（=わたしの記念として行いなさい）を共同体として保つ形が出来上がった。

⇒ ⇒教会が聖霊の導きのもとに「聖書の典礼=ことばの典礼」と「食卓の典礼」を合わせた祈り。

4世紀にローマ皇帝の迫害が終わり、キリスト教がローマの国教となると、信者の爆発的増加で教会が組織化され、制度が整ってきた。同時に地上の権力に与えられた尊敬のしるしがミサに取り込ま

れ、荘厳な儀式となった。政治と教会が結ばれて教会は成長したが、同時に墮落と大衆化へ。

ミサの変遷の歴史は長く複雑であるが、**重大な変化を2つだけ見る。**

1：**共同体の崩壊** はじめは食事の席で始まった共同体のミサが10世紀頃には、ことばの壁（ラテン語のミサ）で共同体を離れた。民衆が理解できないラテン語のミサ。信者の信仰を養うミサが共同体の典礼でなくなり、聖職者の独占物となった。

民衆：ミサ中にロザリオの祈りをする。重要なところで鐘を鳴らす。種々の聖体信心など

2：**共同体の復権** 第二ヴァチカン公会議（1962年～1965年）1980年ミサ典礼書の総則冒頭「ミサの祭儀はキリストの行為であり、・・・神の民の行為であって、全教会にとっても、地方教会にとっても、また信者一人ひとりにとってもキリスト者の生活全体の中心である。」（1980年 第1章1参照）

ミサを行うのは大祭司キリストであると共に、キリストに結ばれたからだ、キリスト者の共同体です。司祭が捧げるミサに信者が預かるのではありません。キリストと結ばれた共同体が捧げるのであり、司祭も共同体の一員として、司式者として共同体のミサに奉仕します。決して司祭のミサではありません。

この考え方が理屈では分かっていても、からだに伝わるには時間がかかります。たとえば、ミサが共同体のものであることがからだで分かれば、ミサに遅れてくることが出来なくなります。ミサを捧げる共同体には沢山の役割があり、朗読、侍者、先唱、聖歌、案内などそして会衆の大切な役割があります。それぞれが各自の役割をはたして、一つの共同体の一つのミサとなること。

ミサの2つの部分—神のことばの食卓（朗読台） と キリストのからだの食卓（祭壇）

典礼改正のもう一つの大きな特徴は**聖書の大切さが最大限に強調されていること**。典礼憲章では「**典礼を行うに当たって、聖書は最も重要である。**」と言明している。朗読をとおして神が語られ、聖書から詩篇が歌われ、聖書のいぶきから祈りや聖歌がうまれ、典礼で用いられるシンボルも聖書から意味がとられている。

参考書：「ミサーイエスを忘れないために」国井健宏著 ドン・ボスコ社 2005年初版発行